

南天の花 ～永井隆 心のうた～ によせて

「原子野の土も五年たてば、やさしくなったのか、今では美しい花が咲くようになりました。四季おりおりに咲きつぐ花を友は手折ってきて私のまくらべに飾ってくれます。私はこの花を通して創造主の愛を感じます。来年も生きのびて再びこの花を見るかどうか、おぼつかない身には、散る花を散るにまかせて過ぎるのが惜しまれ、仰向けにねたまま描く不自由さのうちにも下絵がかなりの数になりました。それを信州の加藤翁が木版にして下さったのがこの画帖です。 長崎市浦上 永井隆」 《版画 原子野の花》より
「承諾を得て、先生の作品を版画にしたのが始めとなり、先生から種々の作品を寄せられました。ただ先生のお慰めにと、先生の作品に全力を尽くして精進致し、出来るのをお待ち下さる病床へ一刻も早くお届けするのが私の全てでありました。」 加藤大道《版画 莊随想 永井隆先生と私》より



永井隆(1908～1951年)と加藤大道(1896～1965年)ふたりの友情の結晶である版画「原子野の花」は、北アルプス上高地の麓の小さなカフェギャラリーに、今も静かに展示されています。

2017年、信州の春遅き桜の頃、「原子野の花」の版画たちに見守られながら、松本市の「カフェプレイエル&ギャラリーやましろ 加藤大道美術館」で《南天の花～永井隆 心のうた～》のレコーディングがおこなわれました。

渡辺しおりさんが、はじめて「南天の花」を歌われたのは、2013年12月、カフェプレイエルでのサロンコンサートでした。廃版となった楽譜を探し求め、長崎市永井隆記念館所蔵の楽譜の写しを、お孫さんである永井徳三郎館長さんに提供して戴いた賜物でした。以来、しおりさんの心の歌となり、そして迎えた2015年戦後70年。奇しくも山田耕筰歿後50年にあたる記念のコンサートで、永井博士のご葬儀以来歌われることがなかったであろう「白薔薇の」を世に問うことにしたのです。探しあてた、永井隆辞世句に山田耕筰が作曲献呈した未発表の楽譜です。作曲家中山博之さんの編曲とピアノ伴奏で、66年の歳月を越えて初めて甦った歌声は、聴く者35名の心に深く深く沁みました。

「まだ描かねばなりません弱りがひどく、手も動かなくなりそうにして・・・」

1950年11月2日 加藤大道宛 永井隆直筆最後の手紙より

「いつもいつも私のために お祈りくださいませ感謝しております。」

1951年4月19日 加藤大道宛 永井隆代筆最後の手紙(5月1日帰天)

永井博士の描く南天も白薔薇も、いずれ加藤大道の手で版画になったことでしょう。けれど、珠玉の歌曲として残ったことを幸いに思います。焼け跡に生きていた南天は、今青々と如己堂に茂り、白薔薇は永井夫人の緑様の化身となって咲いています。「白薔薇の」を音源に残したい！「南天の花」と共に多くの方に聴いて頂きたい！歌い継いで頂きたい！しおりさんの願いから誕生したCDです。このたびは中山博之さんが好んで弾かれた古えのピアノ、プレイエルと、磯野正明さんの瑞々しく味わい深いチェロで新しい命が吹き込まれました。また中山博之作曲「永井隆の短歌による五つの歌」船出のCDでもあります。

ここに至る道を振り返る時、幾多の人と時と場所と、永井隆博士の見えざる御意思があったように思えてなりません。“詩と音楽と絵”を通して、隣人愛と核兵器廃絶、無条件の平和、永井隆博士の御心を感じていただければ幸いです。

カフェプレイエル&ギャラリーやましろ 加藤大道美術館 古畑博子

曲目解説

南天の花…「長崎の哀歌」の副題がついている作品。永井博士が、妻が被爆で即死した自宅の焼け跡にただ一つ残っていた南天の木を、療養していた如己堂に移し替え、その花を眺めながら亡き妻を偲んで作った詩。博士の著作出版に尽力した式場隆三郎医学博士によってその詩は山田耕筰に届けられ、曲がつけられた。白薔薇の…永井博士の死を悼んだ山田耕筰は、博士の辞世の句に作曲し遺族に贈った。それは浦上天主堂で行われた長崎市公葬の際、純心女子学園聖歌隊によって歌われた。楽譜は未発表で、スケッチとして残されていた四声合唱による自筆譜が、遠山一行記念日本近代音楽館に保存されており、2015年渡辺しおりの「山田耕筰没後50年のコンサート」で、中山博之の編曲によりソロ曲として新たに演奏された。永井隆の短歌による五つの歌…永井博士は歌人でもあった。大学入学後は「アララギ」に入会し、多くの短歌や俳句などを作った。短歌集「新しき朝」の中から選んだ五首による中山博之の曲は、博士の短歌に新たな叙情の世界を開いている。ああ此の涙をいかにせむ…この詩はサトウ・ハチローが、博士の訃報に接して読んだ弔辞。古関裕而の作曲をそえて霊前に供えられ、長崎市公葬で純心女子学園の学生が合唱した。長崎の鐘…永井博士が、自ら被爆し、多数の患者を治療した一人の医者立場から書かれた随筆が「長崎の鐘」。1949年1月に出版されベストセラーとなった。同年7月に発売された藤山一郎によるレコードも大ヒットし、翌50年に映画化された際に主題歌として取り入れられた。新しき朝の…1945年クリスマス・イブの朝、浦上天主堂の廃墟の中から天主堂の鐘が奇跡的に無傷の状態で見つかり、その夜、掘り出された鐘の音が浦上に鳴りわたった。これに感銘を受けた永井博士が詠んだ句。のちに博士は、この句を藤山一郎、古関裕而、サトウハチローに贈った。古関は直ちに曲をつけ、藤山も自身作曲の「新しき朝」を「長崎の鐘」に続けて歌っていたという。



渡辺しおり

君死にたまふことなかれ…吉田隆子(1910～56)は、反戦や労働者解放、女性解放を主張し続けた作曲家。思想犯として何度も拘留され、46歳の若さで亡くなった。そんな吉田が、與謝野晶子の、女の立場から鋭く戦争に抗議した有名な詩に、4年の歳月を費やして作曲した渾身の傑作。鳥の歌…20世紀最高のチェリストとされるパブロ・カザルスの編曲によるカタロニア民謡で、カザルスの、故郷への思慕と平和の願いが込められている。原曲はクリスマス・キャロルで、鳥たちが集いキリスト聖誕を祝っている様子を歌っている。グレッツキ交響曲第3番“悲歌”第2楽章…グレッツキ(Henryk Mikolaj Górecki)は1933年生まれのポーランド人の作曲家。代表作“悲歌のシンフォニー”はソプラノとオーケストラのための作品で、第2楽章は、第2次大戦中、ナチスゲシュタポ本部「パレス」に投獄された18歳のポーランドの少女が、独房の壁に爪をたてて刻みつけた言葉を歌詞としている。ねがい…1980年代、ポーランドに民主化運動が起きたとき、林光はこれを支援し、「ポーランド緊急支援コンサート」の為に劇中歌として作曲した。ピアノ部分はショパンを思わせ、クライマックスとなる間奏にはポーランド国歌が引用されている。Stand Alone…2009年から3年間、年末に放映されたNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」の主題歌。希望に満ちた歌詞が、高揚感を持って歌われていく。





渡辺しおり / ソプラノ

Shiori Watanabe, Soprano

福岡県出身。武蔵野音楽大学卒業。声楽を山田実、永井和子両氏に師事。ほぼ毎年開催しているソロ・リサイタルは、親しみやすいプログラミングとトークで好評を得ている。オペラでは、岡谷市カノラホールでの創作オペラ「御柱」の主役ヤサカ、松本市まつもと市民芸術館での「カルメン」のミカエラ、その他同ホールでの創作オペラに主演。宗教曲、合唱曲のソリストとしての出演も多数。ジャンルにとらわれない幅広いレパートリーで、各地で様々な演奏活動を行なっている。CD は “Shiori Les Chemins de l' Amour ～ 愛の小径” “ピアノにのせて歌うラジオ歌謡曲集Ⅰあざみの歌 / Ⅱ 白い花の咲く頃 / Ⅲ アカシヤの花” の4枚をリリース。長野県岡谷市在住。



中山博之 / ピアノ・編曲

Hiroyuki Nakayama, Piano / Arrange

東京藝術大学作曲科卒業。作曲を佐藤真、福士則夫、青島広志各氏に師事。ピアニストとして、日本フィルハーモニー、東京交響楽団と共演、多くの映画・TV コマーシャル音楽の録音、ポーランド大使館での演奏等、またショパン生誕 200 年にはワルシャワ・パリにてショパンを演奏し喝采を浴びる。ゲーム音楽の世界においても絶大な人気を誇り、世界 11 カ国で自身編曲の「ピアノ・オペラ ファイナルファンタジー」コンサートツアーを行なう。多彩な作曲・編曲作品に加え、コンサートでは、軽妙なトークと、詩情豊かな演奏からエンターテインメント性高い演奏まで自在にこなし、マルチな才能で活躍している。東京声楽コンクールにて最優秀伴奏者賞受賞。



磯野正明 / チェロ

Masaaki Isono, Cello

3 歳よりチェロを始める。東京藝術大学附属音楽高校を経て、同大学卒業。在学中に成績優秀者に選ばれ、モーニングコンサートにて藝大フィルと共演。第7回札幌 Jr. チェロコンクール最優秀賞をはじめ、多くの国内コンクール・オーディションに入賞・合格。オーストリア室内音楽祭にて音楽祭賞を受賞し、その演奏がオーストリア国営放送にて放送された。現在、オーケストラやミュージカルでの演奏や、室内楽奏者として、全国で演奏活動を行っている。また、八王子にて磯野チェロ教室を開校し、チェロの普及活動に力を注いでいる。これまでに 庭野隆之・黒川正三・林俊昭・菊地知也・ヨゼフルイツ・オルフェオマンドッチ・Vシュタッドマイヤー・山崎伸子の各氏に師事。



録音 ①～⑦, ⑨, ⑪ 2017 年 4 月 12 日 カフェ・プレイエル&ギャラリーやましろ
April 12, 2017 Cafe-Pleyel&Gallery Yamashiro
(ピアノ：プレイエル PLEYEL No.174215 1923 年 in Paris 調律：福田泰博)

⑧, ⑩, ⑫～⑭ 2017 年 4 月 13 日 塩尻市レザンホール 中ホール
April 13, 2017 Raisin Hall
(ピアノ：スタインウェイ Steinway & Sons 調律：鈴木日出夫)

写真 Takafumi Ueno (Nagasaki Photo)
ASUMI (Shiori Photo / Hair & Make)

収録・製作 パブリックレコード株式会社

レコーディング・エンジニア 小松博人

Special Thanks 古畑博子 長崎市永井隆記念館 カトリック浦上教会